

平成二十一年十一月三十日（月）

日蓮宗とハリーランドネットワーク「心といのちの橋渡し」

天台法華教学から見た生命観

— 輪廻転生説をふまえて —

立正大学准教授 田村完爾

天台大師智顛（五三八—五九七）



法華經による一切經（全仏教）の統一を説いて天台法華宗を立て、止観行（自己の心を静めて観察する修行）を実践する。薬王菩薩の再誕と信じられている。

天台大師の法華三大部

『法華玄義（ほっけげんぎ）』

法華經の題名「妙法蓮華經」についての講義。
妙法蓮華經の五字の重要性を示す。

『法華文句（ほっけもんぐ）』

法華經の經文についての講義。

法華經を迹門（前半）と本門（後半）に分け、
本門の重要性を示すが、迹門を中心に語る。

『摩訶止観（まかしかん）』

法華經に基づく修行方法についての講義。

『一念三千』を説く。



法華經變相圖（京都妙満寺蔵）

天台山の位置



南北朝時代末期の中国南部図

天台山の風景

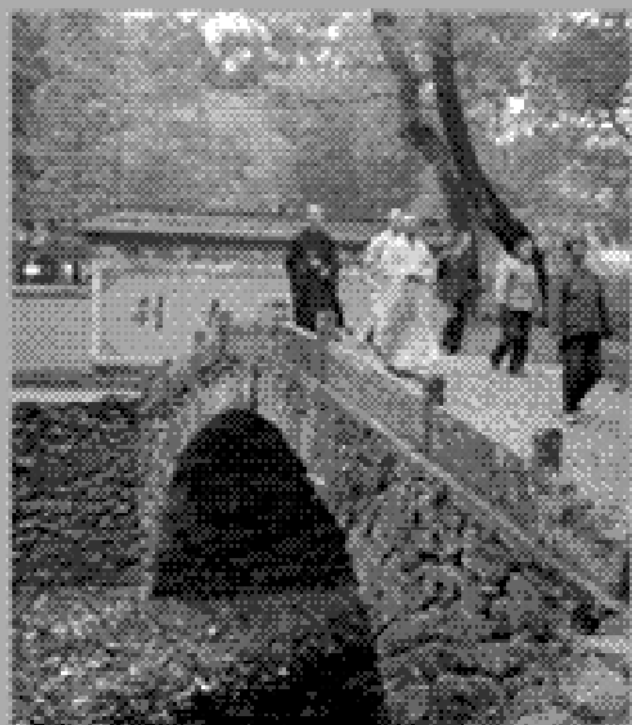


天台山の風景
天台山の風景

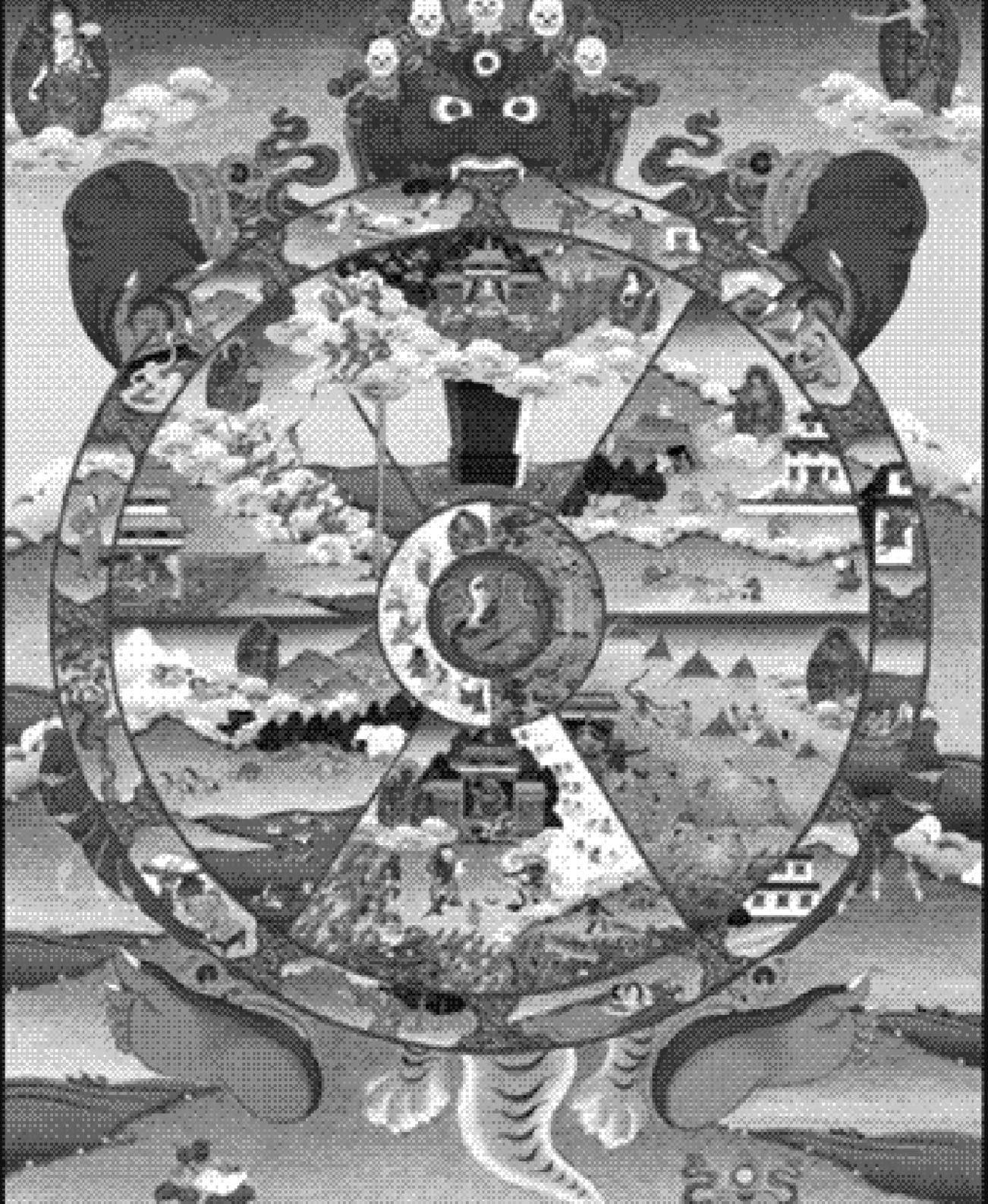


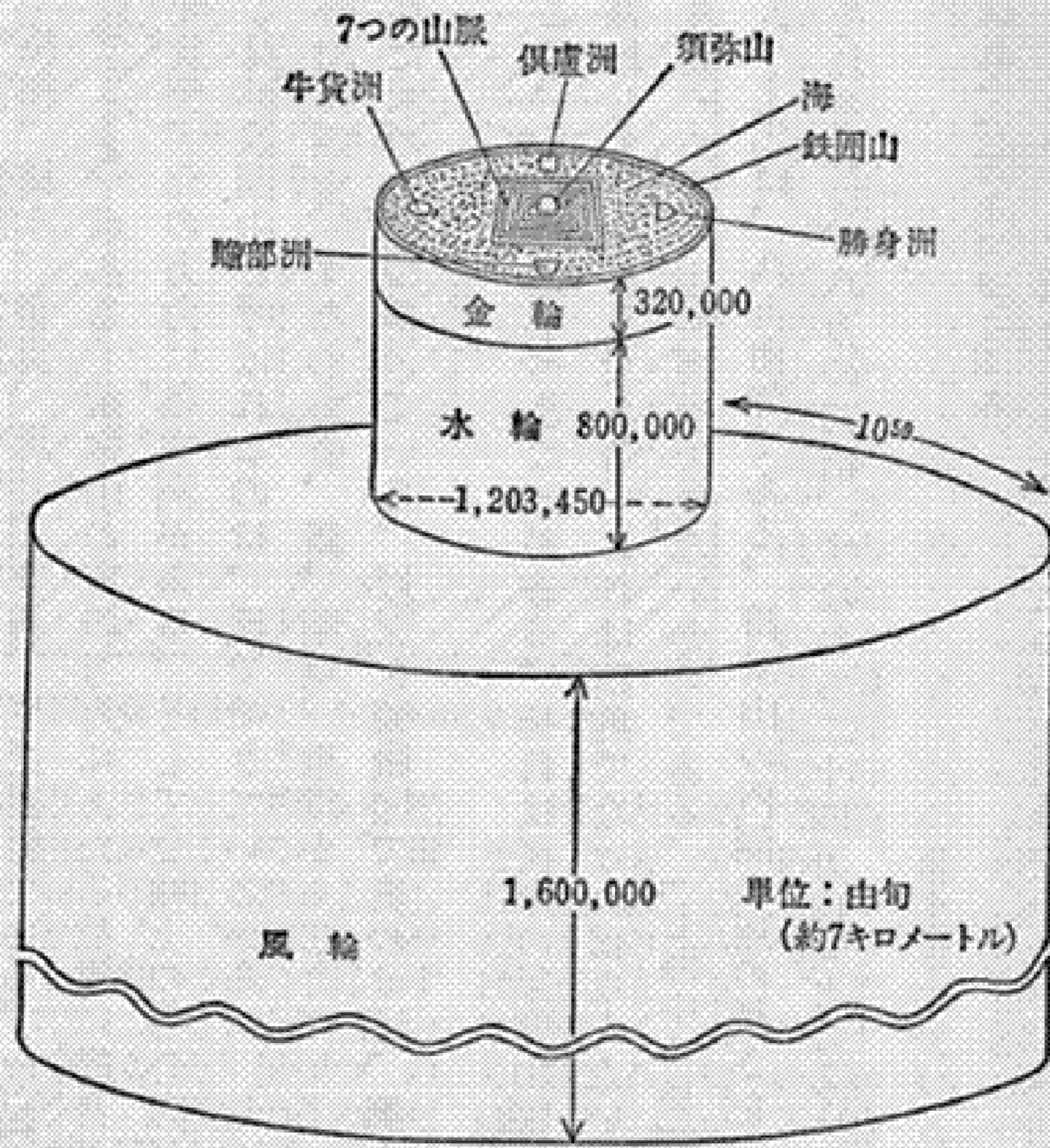


天台山の風景2
天台山の風景2
天台山の風景2



六道輪廻圖





第1層 須弥小世界の構造

古代インドの宇宙観

天界

金輪の内側の大海に四つの大陸が浮かぶ

閻陀尼洲

俱盧洲

須弥山の根拠を
太陽・月・星
がめぐる

切利天(三十三天)

帝釈天と三十三の神々の住居がある

須弥山(スメール)

宇宙の中心にそびえる。中央の四方に張り出しがあり、四大王が守りを守る



金輪

勝身洲

瞻部洲

須弥山

須弥山南方の大陸が
われわれの世界である

大海

大海の中央に七重の
山脈がある

水輪

風輪の上に水輪がある

金輪

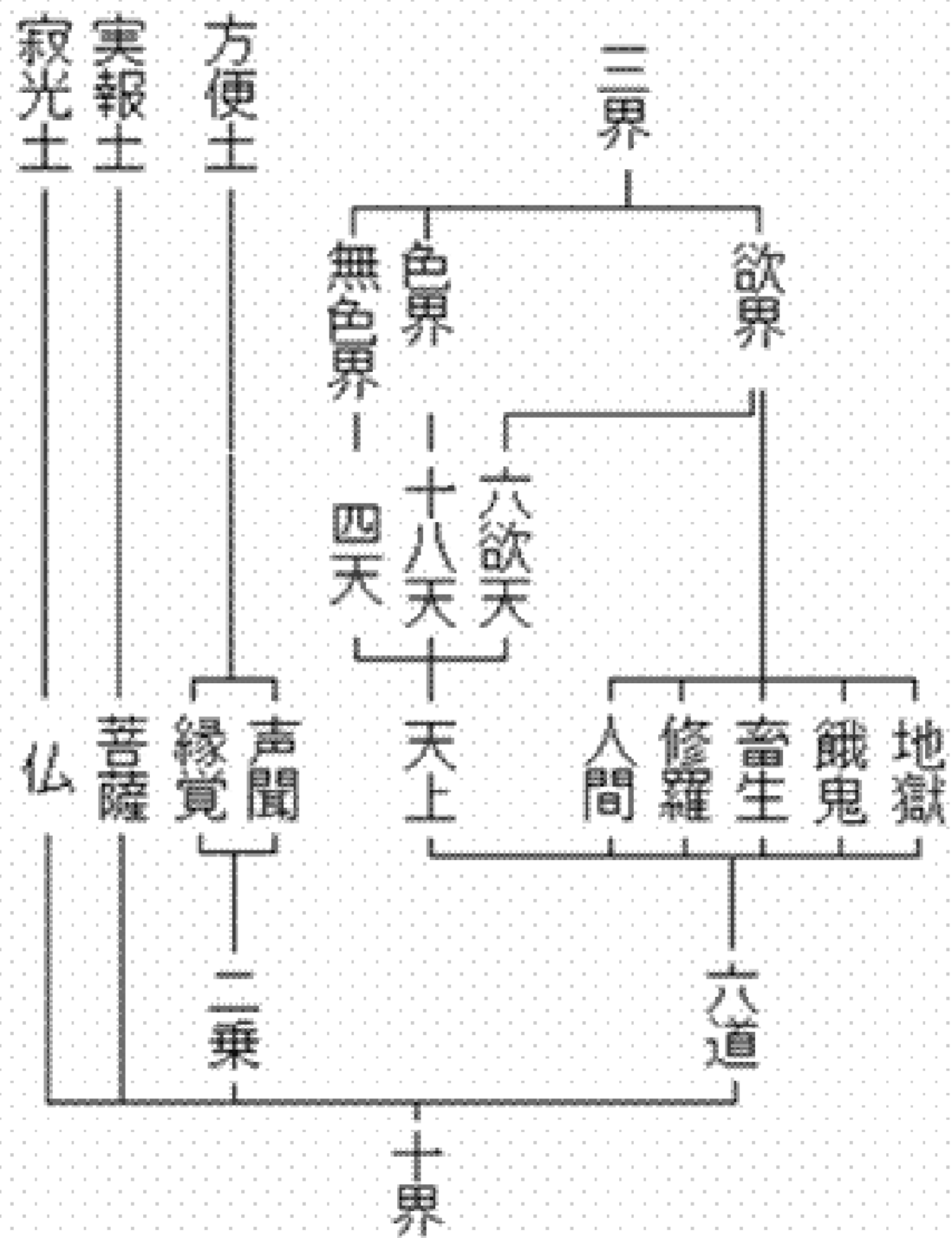
水輪の上層を金輪がめぐる。その上は須弥山という
山脈になり、水ももらさない

風輪

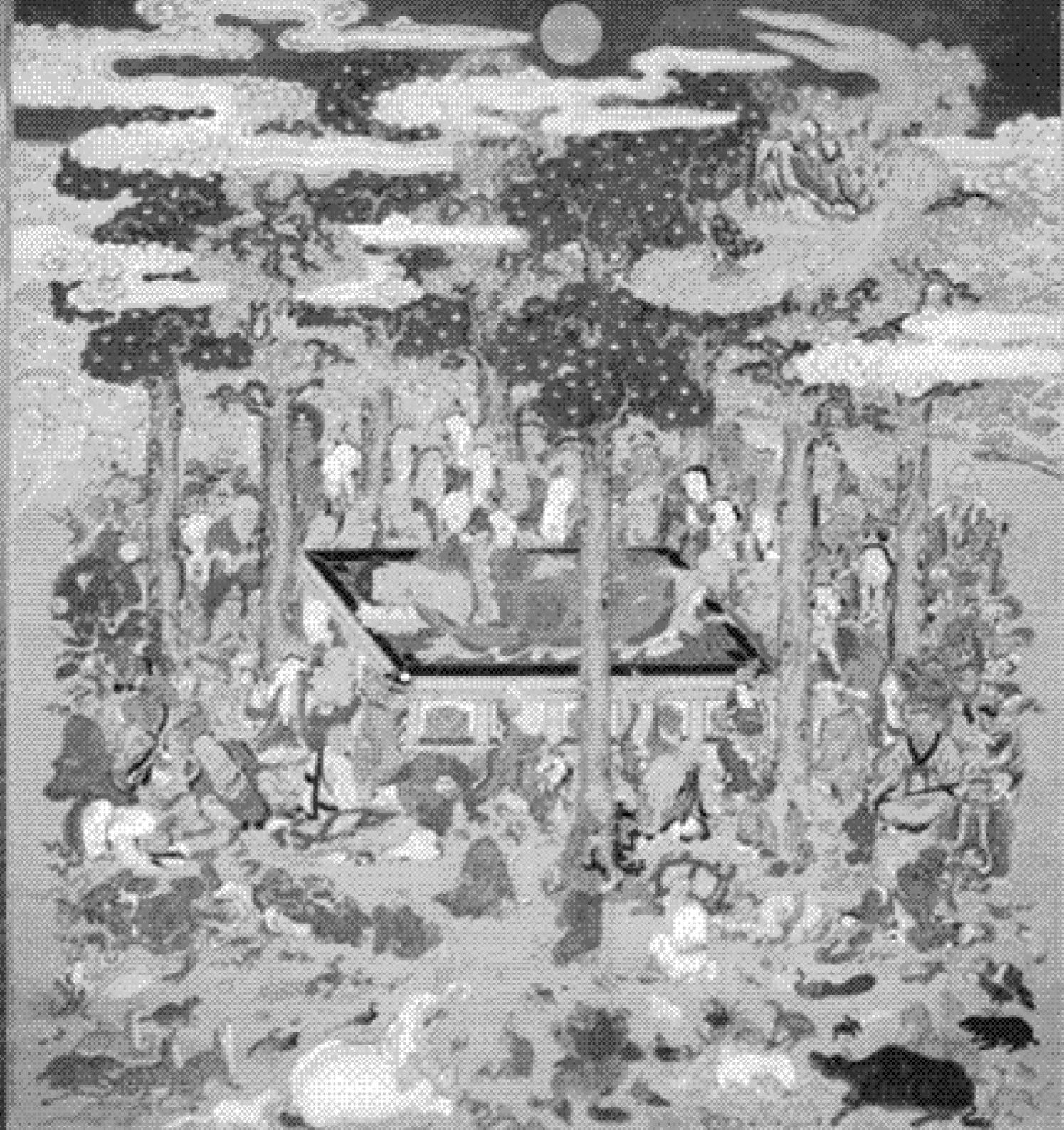
この世界は熱の虚空に漂う最初の水
から起し、暑でしなく長い時を経て、
熱に戻る。インドの時空論で最
具の時を表す「時(カल्प)」は、
一週にその1サイクルをいう

虚空に風輪が浮かぶ。須弥山の
高さは八万四千由旬である

三界六道圖



仙涅槃圖



一念三千とは何か？

私たちの一瞬一瞬の心に、全世界・全宇宙がそなわっており、私たちは本来、

全世界・全宇宙、そして仏と一体であるとする悟りの境地。

全ての存在（人間・動物・草木・国土・・・）とわたしたちの心はつながっている。

すべてが自分であり、同時に自分がなくなる。他者の喜びをすべて自らの喜びとし、

他者の悲しみをすべて自らの悲しみとする。自分がまったくなくなるにより、

執着心が消え、すべてが自由自在となる。常（永遠）

楽（安楽）

我（大我） 宇宙との合一、自由自在の境地

浄（清浄）



伝教大師坐像
(滋賀・観音寺)

日本天台法華宗の開祖。
天台大師の転生とされる。

止観の観心行により一念三千を体得する

このような悟りをめざすために、天台大師は観心（かんじん）という修行の方法を説く。自分の心を静め（止）その心を観察する（観）↓止観行。一生のうちに釈尊と同じ仏となることをめざす。しかし、この修行は激烈な厳しさをともなう。日常生活をはるかに離れ、厳格な戒律をきわめ、その後、はじめて止観・観心の修行を我慢強くたゆまず行い、長い年月をへて、成就する。



天台大師坐像
(愛知・瀧山寺)